

1 指針策定の背景

◆ 少子高齢化の進行

- 少子高齢化の進行は、人口減少のほかにも、核家族化の進行や住民相互のつながりの希薄化、労働力や各種活動の担い手不足など、地域の様々な活動の停滞・縮小に及ぼす影響は非常に大きいものになります。
- 今後、更なる人口減少、少子高齢化の進行が見込まれる中においては、地域活動や日常生活をこれまでどおり送ることができるのか懸念されます。

◆ 地域コミュニティの役割の重要性

- これまでも地域コミュニティは、環境美化・保全活動、高齢者や子どもの見守りなどの福祉活動、防災や防犯活動など様々な分野における地域課題の解決を図るうえで大きな役割を担ってきました。
- 人口減少・少子高齢化社会における地域の在り方を考えた時、地域コミュニティの役割はますます重要になっていくものと捉えています。

◆ 地域コミュニティとのつながりの必要性

- 近年、地域で日々の生活を送りながら、町内の事業所・企業で技能等の習得、習熟を図る外国人技能実習生の人数が増えています。
- 独居の障がい者や認知症の方などを含め、社会的に少数派と位置付けられる方々も地域で暮らしています。
- 地域住民が地域で孤立しないためにも、自らの居場所となる「地域コミュニティ」とのつながりを確保・維持する必要性が高まっています。

◆ 地域課題の複雑化

- 人々の価値観や意識、生活様式の変化から住民の暮らしに関する考えも多様化、複雑化しています。
- 多様化・複雑化する地域課題に対しては、行政のみならず、様々な主体が連携・連動して向き合わなければ解決を図ることは困難になっています。

◆ あるべき姿や方向性を共有

- 今後の社会潮流の変化や人口減少、少子高齢化の進行により、私たちはいまだ経験の無い時代を迎えます。
- 将来にわたって持続可能な地域づくりを進めるために、地域の様々な主体が、あるべき姿や方向性を共有し、それぞれの連携により強みを活かし弱みを補い合いながら、まちづくりの主体として自ら考え行動していくことが不可欠になります。